



NCホールディングス株式会社

# Consolidated Business Results

2018年3月期 説明資料 NCホールディングス(株)  
東証一部:6236



# 会社概要・グループ事業のご紹介

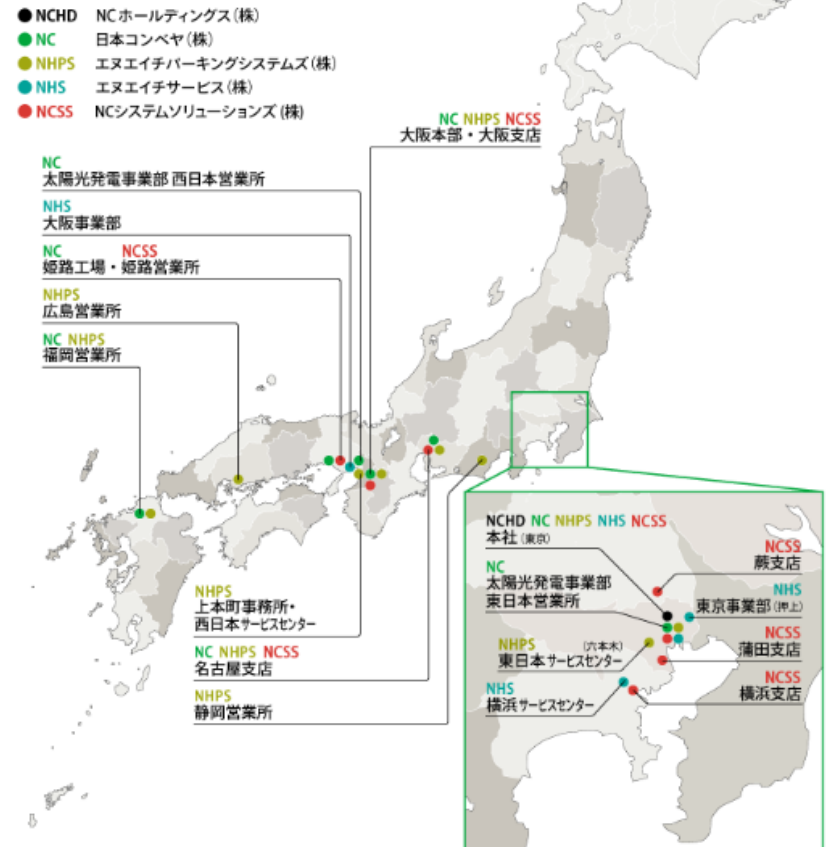
# 会社概要

商号 NCホールディングス株式会社(英文名:NC Holdings Co., Ltd.)  
設立 2016年4月1日  
所在地 東京都千代田区鍛冶町一丁目7番7号 ヒルトップ神田ビル MAP  
資本金 3,800,000,000 円

## 事業内容

コンベヤ関連、立体駐車装置関連、  
システム開発・人材派遣関連を行う子会社  
等の経営管理及びそれに付帯又は関連  
する業務

代表者 代表取締役社長 梶原 浩規  
株式上場 東証1部上場  
決算期 3月31日



# グループ企業が手掛ける事業

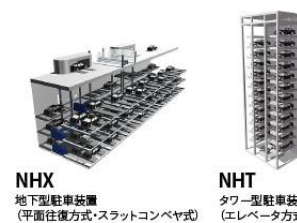
## 日本コンベヤ株式会社

- ◆ 大型ベルトコンベヤのトップメーカーとして、物流搬送システムの改善・改良・低コスト・大量搬送を実現した各種コンベヤを開発・製造
- ◆ 太陽光発電事業にも参入し、環境面や省エネにも考慮した21世紀の産業の発展に貢献



## エヌエイチパーキングシステムズ株式会社

- ◆ 立体駐車装置・機械式駐車装置におけるフロントランナーとして、豊富な納入実績をベースに、優れた技術とサービスで、施設プランに対応したパーキング設備を提供



## エヌエイチサービス株式会社

- ◆ 立体駐車装置のメンテナンス・販売・工事及びコインパーキングの運営など、質の高いサービスと迅速な対応で安全で快適な環境づくりに貢献



## NCシステムソリューションズ株式会社

- ◆ 人材ビジネスに加え、システム開発事業を展開。機械メーカーとのコラボレーションで、より高度なソリューションを提





# グループの沿革

## NCホールディングス(株)の沿革

2016年NCホールディングス株式会社を設立

2018年グループ組織再編および大東拠点移転・統合を実施

## 日本コンベヤ(株)の沿革

1949年株式会社日本コンベヤー製作所設立

1956年黒部川第四ダム 骨材運搬用ベルトコンベヤ設備を納入

1961年株式を大証2部に上場

1981年姫路工場新設

1982年株式を東証・大証1部上場

1988年エレベータ方式特殊駐車装置の認定を受ける。立体駐車装置事業を開始する

1989年関西空港埋立用土砂搬送用コンベヤ納入

2006年エヌエイチパーキングシステムズ株式会社営業開始  
(日本コンベヤ・日立造船事業統合会社)

2010年ハノイにNCベトナム現地法人開設

2013年TCSホールディングス株式会社と資本業務提携

2013年キャリアスタッフネットワーク株式会社を株式交換により取得

2013年NH Parking Systems Taiwan Co., Ltdを設立

2016年本社を東京都千代田区に移転

# 新任挨拶

# 新任代表取締役紹介

(氏名/生年月日)

梶原 浩規

昭和 37 年 (1962 年) 5 月13日生

(略歴)

昭和 61 年 4 月 株式会社三和銀行 入行

平成 12 年 4 月 ソニー生命株式会社 入社

平成 18 年10月 株式会社カジ・ビジネス・コンサルティング 代表取締役社長

平成 24 年 2 月 株式会社ライフプラザパートナーズ入社 本社営業部長

平成 29 年 3 月 明治機械株式会社 太陽光発電事業部長

平成 29 年 6 月 当社取締役(監査等委員)

平成 30 年 6 月 当社代表取締役就任



# 2018年3月期 決算概要

## 2018年3月期 ハイライト

売上高

13,417 百万円

(前年同期比123.3%)

経常  
利益

887 百万円

(前年同期比377.2%)

営業  
利益

737 百万円

(前年同期比392.4%)

当期  
純利益

▲291 百万円

(前年同期純損失122百万円)

(主な経営環境・トピックス)

- ✓ コンベヤ関連は電力関連、土木関係設備の納入、立体駐車装置関連の新設納入やメンテナンス、太陽光発電システム関連の引渡しが堅調に推移
- ✓ 子会社の大阪本部が所在する拠点の統合を決議(18年3月)

# 決算概況(P/L)

- ◆ コンベヤ関連・立体駐車装置関連における堅調な売上及び徹底した合理化が奏功し、前期比増収及び営業・経常損益は大幅な増益
- ◆ 一方、子会社の大阪本部が所在する拠点の統合等に伴い特別損失を計上

(単位:百万円)	2017年3月期		2018年3月期		前期比 増減(%)
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	10,880	100.0%	13,417	100.0%	123.3%
営業利益	187	1.7%	737	5.5%	392.4%
経常利益	235	2.1%	887	6.6%	77.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△122	-	△291	-	-

# 決算概況(セグメント別)

## ◆コンベヤ関連

(単位:百万円)	2017年3月期		2018年3月期		前期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	2,647	100.0%	4,238	100.0%	160.1%
営業利益	△387	-	△38	-	-

✓ トンネル工事向け延伸コンベヤを含む土木関連のコンベヤ設備、保守部品の納入が奏功

## ◆立体駐車場装置関連

(単位:百万円)	2017年3月期		2018年3月期		前期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	6,467	100.0%	7,249	100.0%	121.1%
営業利益	685	10.6%	811	11.2%	118.4%

✓ 大型商業施設向けなどの新規設備納入、メンテナンスが堅調に推移

# 決算概況(セグメント別)

## ◆人材派遣関連

(単位:百万円)	2017年3月期		2018年3月期		前期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	302	100.0%	349	100.0%	115.6%
営業利益	2	0.9%	13	4.0%	483.5%

✓ 売上及び営業利益とも伸長

## ◆太陽光発電システム関連

(単位:百万円)	2017年3月期		2018年3月期		前期比
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	1,463	100.0%	1,578	100.0%	107.9%
営業利益	8	0.6%	87	5.6%	1068.2%

✓ 機器販売が減少する一方、太陽光発電所設備を販売するディベロップ案件の販売により増収 12

# 決算概況(B/S)

- ◆ 受取手形及び売掛金の増加等により前連結会計年度末比2,951百万円の資産増加
- ◆ 引き続き高い流動性及び強固な財務基盤を維持

(単位:百万円)	2017年3月期	2018年3月期	前期末増減額
流動資産	8,938	12,091	3,153
( 現 預 金 )	3,121	3,429	307
固定資産	3,513	3,312	△201
総 資 産	12,452	15,404	2,951
負 債	4,863	8,242	3,379
( 有 利 子 負 債 )	170	1,900	1,730
純 資 産	7,588	7,160	△428

# グループ再編・拠点統合及び特別損失計上について

# グループ再編について

## (再編に係る決議内容)

- ◆ 2018年3月開催の取締役会において、子会社である日本コンベヤ株式会社とエヌエイチパーキングシステムズ株式会社が合併することを決議（実行日：2018年7月1日）

- ◆ エヌエイチパーキングシステムズ株式会社は、剰余金の配当として、同社保有の子会社株式（エヌエイチサービス株式会社）の全株式を当社へ現物配当を実施（配当実効日：2018年4月1日）

## (再編の目的)

- ◆ エンジニアリング事業の収益力強化や事業シナジーの創出、会社機能の一元化やコスト削減等、合併によるグループ全体の適切な利益確保の基盤作りを図る

- ◆ 当社は、孫会社エヌエイチサービス株式会社を直接支配することにより、グループの意思決定の迅速化及び事業の拡充を目指し、ストック型ビジネスであるメンテナンス事業の更なる受注積み上げに努める



# 拠点統合及び特別損失計上について

## (特別損失発生要因)

- ◆ グループの営業管理・R&Dの一元化と事業シナジーの創出及び販売費及び一般管理費の削減等を目的とし、当社子会社大阪本部が所在する大東拠点並びに上本町事務所を閉鎖し、OMMビル(大阪市中心部)に統合・移転(1)
- ◆ 上記、移転に伴い発生する費用に加え、主にコンベヤ関連セグメントにおいて全ての資産の見直しを実施し特別損失を計上(2)

## (特別損失の金額)

- ◆ 2018年3月期末決算において、下記の特別損失を計上
  1. 移転により発生する、移転損失引当金繰入額665百万円、減損損失260百万円、合わせて925百万円を特別損失として計上
  2. コンベヤ関連にて収益性低下が長期化し、減損の兆候が認められたことにより、233百万円を減損損失として特別損失に計上

- ◆ 更なる将来の飛躍に向け、邁進できる体制を整備

# 2019年3月期 業績予想

# 2019年3月期 業績予想について

◆ コンベヤ関連は公共事業関連を中心に比較的に堅調に推移、立体装置関連においても、再開発による商業施設向け設備の納入、メンテナンスが堅調に推移し、また、太陽光発電システム関連においても売上が増加する想定。

(単位:百万円)	2018年3月期		2019年3月期		増加率
	金額	売上比率	金額	売上比率	
売上高	13,417	100.0%	14,500	100.0%	8.1%
営業利益	737	5.5%	450	3.1%	△38.9%
経常利益	887	6.6%	500	3.4%	△43.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△291	-	400	2.7%	-

# 成長戦略に係る今後のビジョン

## 成長戦略に係る今後のビジョン

◆ コンベヤ関連事業および立体駐車装置関連事業における「エンジニアリング事業」の収益力強化の構築・拡充

◆ 立体駐車装置関連事業における「リーディングカンパニー」を目指すべく、市場シェアの更なる拡大の実現

◆ メンテナンス事業を担うエヌエイチサービス株式会社を当社孫会社から子会社に異動し、当社が直接支配を行うことによる、同事業の更なる受注の積み上げおよびストック型の安定収益体制の構築・拡充

(外部成長 External Growth)



◆ この度のグループ再編を機に、持株会社による既存事業の成長支援・コーポレートガバナンスの強化、ITや延伸に代表される先端技術を活用した新規事業の創造推進、戦略的な業務提携・M&Aを加速度的に推進し、グループとして更なる成長および企業価値の最大化を目指す

# 将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、当社による現時点における推定または見込みに基づいた将来展望についても言及しております。
- ◆ これら将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。それらのリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、為替変動といった国内および国際的な経済状況が含まれ、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- ◆ 当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- ◆ 本資料における将来展望に関する表明は、利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、今後、新しい情報や将来の出来事等があった場合であっても、将来展望に関するいかなる記載も更新し、修正を行う義務を負うものではありません。



NCホールディングス株式会社